

カリキュラム案を基にした教材の作成とその活用

— 磐田地域日本語教室 対話活動のための教材「にほんごで おしゃべりしよう！」 —
磐田国際交流協会

事業の概要

名称：生涯学習で実現する多文化共生のまち磐田日本語教育事業

目的

外国人が日本語力をつけ、日本人も外国人とコミュニケーションをとる力を身につけることができる**文化交流・対話の場を実現**し、多文化共生のまちづくりに貢献する。

内容

- 日本語教室の設置・運営
豊田教室、西貝教室、ワークピア教室、竜洋教室、子どもにほんご教室
- 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
(公財) 静岡県国際交流協会との合同事業で、日本語ボランティア研修会「やってみよう!日本語ボランティア - 「教える」から「一緒に活動する」へ -」を開催
- 日本語教育のための学習教材の作成
磐田地域日本語教室対話活動のための教材「にほんごでおしゃべりしよう！」

地域の背景と課題

平成 24 年 3 月末現在の磐田市の外国人登録者数は 6,702 人で総人口の約 3.9%。国籍は、約 7 割がブラジル、続いてフィリピン、中国となっている。全体的にはブラジル人を中心に減少傾向にあるが、近年フィリピンからの子どもの呼び寄せが増え、中国からの日本人配偶者も増加している。

磐田市は、平成 24 年 4 月に「第 2 次磐田市多文化共生推進プラン」を策定した。その中の重点施策として「日本語を学びやすい環境の整備」が掲げられている。

このような背景を踏まえ、地域日本語教室では多文化共生のまちづくりに貢献することを目指し、活動内容も「教え、教えられる」文法中心の教室から、会話を重視した相互学習へと移行しつつある。また、ボランティア説明会を開催し、地域の日本人の参加を促している。

課題

参考：カリキュラム案ガイドブック

磐田市に住む外国人

- ・日系南米人
- ・日本人の配偶者
- ・中国帰国者
- ・日本企業勤務者
- ・技能実習生
- ・企業内転勤者

多文化
多言語

- ・日本語を使用する機会が少ない
- ・地域社会との関わりが希薄
- ・日本人と接する機会が少ない
- ・日本語教室に毎回参加するわけではない

解決方法を考える

参考：カリキュラム案ガイドブック

対話活動を取り入れた日本語教室

- ・地域の日本人と対話や交流をすることができる
- ・地域の行事に参加するきっかけになる
- ・実際の会話で日本語でのコミュニケーション力を養う
- ・一回ごとに完結するので毎回参加できない人も参加しやすい



教材をつくる

参考：教材例集

生活上の課題を 4 つに分類

- 生活情報・・・生活に役立つ情報を得る
- 交友・余暇・・・人と仲良くなる 余暇を楽しむための情報を得る
- 地域社会・・・社会のルールを守り、地域社会に参加する
- 子ども・・・子育てや子どもの教育に役立つ情報を得る

活動方法を 4 つに分類



それぞれに合わせたテーマを選定

教材集の使い方



1. テーマ一覧からテーマを選ぶ



2. 各テーマのページを参考に、教室に合った活動内容を考える。



活動例



対話活動の流れ

1・2

あいさつ・自己紹介・ゲーム
緊張を解き、話しやすい雰囲気をつくる



3

グループ分け
日本語レベルをなるべくそろえる



4

トピックの提示
その日話すことのイメージをつかむ



5

対話

① グループで対話



② 全体で共有
他のグループで出た話を共有する



③ 全体(ペア)で対話
一対一で相手を替えながら
たくさんの人と話す

6

まとめ

話したことを「ふりかえりシート」に書く
学習記録を残す



7・8

ふりかえり・お知らせ

全員でその日の感想や気付いたことを話し、
次週のテーマ、連絡事項なども伝える



「文化祭」

事前準備：文化祭実行委員会に出席、発表内容の企画、練習、ケーキ作り等

当日：①ブラジルケーキの販売。接客、呼び込みなども学習者主体で行う。

②舞台の練習とクイズの賞品などの準備

③舞台発表（各国クイズと合唱）

④みんなで昼食



★クイズの内容の相談、ケーキ作りなどの事前準備から、当日の模擬店での販売や舞台発表まで、**外国人参加者が中心**となり、日本人はそれをサポートしながらすすめた。



「ごみの分別こうざ」

磐田市出前講座を利用

事前準備：市担当者との打合せ（2回）

当日：①市職員から説明 ②参加者から質問 ③グループで対話

④全体で共有

★外国人にわかりやすい配布資料の内容や表記の方法、説明の仕方を担当者に伝え、事前に変更してもらった。

<説明>

参加者に合わせた話し方をする
(例を挙げてアドバイス)
実物やイラスト、写真など
見て分かるものを用意する

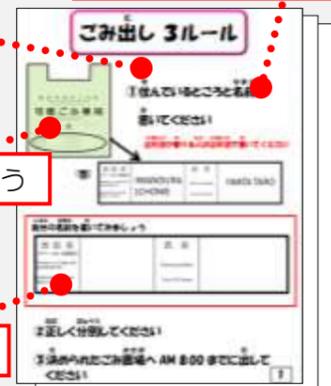
<配布資料>

やさしい日本語を使う

ルビ

イラストを使う

翻訳の活用



「図書館へ行こう！」

磐田市出前講座を利用

事前準備：図書館担当者との打合せ

当日：

①図書館職員から、図書館の概要、利用方法等の説明

②図書館内の見学 ③希望者は利用カードを作成

★これまで図書館に行ったことのなかった外国人参加者も、この活動を通して**図書館**を利用できるようになった。



成果

●外国人参加者の社会参加に繋がった

- ★磐田市多文化共生社会推進協議会の委員に就任
- ★磐田市自治会連合会の情報交換会で外国人ゲストとして自国の紹介
- ★協会主催の「世界の料理教室」講師

●多様な地域の日本人が参加するようになった

- ★多様な日本語にふれる機会が増えた

●交流や体験の活動が増えた

- ★市内をめぐるバスツアーの実施
- ★市の出前講座を利用し、図書館体験、ごみ講座、防災講座を実施

●参加者が気軽に対話活動の進行役を担当できる

教室に来ると元
気になります
(*^_^*)

今後の課題

- ◆外国人の地域社会への参加
- ◆自治会など他団体・組織との連携
- ◆行動・体験中心の活動の充実
- ◆日本語力の成長の実感

みんなで話す
のが楽しい!

